

レスキューPCソリューションを活用した 防災訓練が初開催！！ in つくば市立吾妻小学校

レスキューPCソリューションを活用した防災訓練がつくば市で開催されました。初の試みながらも、参加者は大きな手応えをつかんだようです。

実際に使ってみることに意味がある

2012年8月10日、つくば市立吾妻小学校で災害時を想定した防災キャンプが開催されました。目的は、災害時の避難所設営や初動体制の動きを確認することです。その中で、同校がこの春に導入したレスキューPCソリューションの設定・操作訓練も行われました。レスキューPCソリューションが防災訓練で活用されたのは初めてのことです。

つくば市では、「まちづくりはひとづくり」とつくば市教育委員会 教育指導課 課長の中島達夫氏が語るように、教育に大きな力を注いでおり、IT活用も積極的に取り入れてきた経緯があります。そのような中で、2011年3月に東日本大震災が、2012年5月には竜巻による大きな被害が発生したことを受けて、同市ではさらなる防災体制の強化を考えました。そうした状況下において、1台で教育用PCと災害対策用PCの2役を兼ねるレスキューPCソリューションを導入することで、地域の避難所としても利用される学校の防災体制の強化を実現しました。

今回、防災訓練を開催することについて中島氏は、「レスキューPCソリューションを実際に使ってみることは、防災教育において大きな意味があります」と話します。

防災訓練は大成功

防災訓練では、WiMAXルーターのネットワーク設定の仕方や、レスキューPCソリューションがインストールされたPCを災害時に活用するための基本的な設定などの訓練が行われました。教員やPTAの参加者は説明に熱心に耳を傾け、実際の操作方法を習得していました。

つくば市 企画部 企画課 主査の名田雅希氏は、「参加された方々は、WiMAXと併用することで防災拠点をどこにでも構築できるレスキューPCソリューションの有効性を実感されたようです」と防災訓練が成功裏に終わったことを喜びました。

吾妻小学校防災訓練 PTA 参加者のコメント

災害発生時の円滑な運用に向けて

東日本大震災を経験した現在、発災直後の情報空白期における支援システムは、今後ますます、必要不可欠になるでしょう。特に、小中学校などの教育機関は、児童や生徒の退避だけでなく、その後の保護者への引き渡しや一時避難所の初期開設など、強いストレス下での矢継ぎ早の作業を強いられるため、様々な使い方を想定したストレスフリーな支援システムが求められます。そうした観点から、レスキューPCソリューションについては、常時から学校PCとしての利用を前提としてシステム設計されていますが、災害発生時における運用までいかに円滑に移行できるかが課題でした。吾妻小学校の防災訓練の一環としてそれを実証できたことは一つの成果でしょう。

レスキューPCソリューションを活用した防災訓練の様子



DISの担当者がレスキューPCソリューションの災害時システムの使い方を指導。

災害時システム稼働までの流れ



まずは災害時システムに切り替える。



WiMAXに接続するためにWiMAXルーターを防水・耐衝撃ケースから取り出す。



WiMAXへの接続が完了し、災害時システムの基本設定も終了。



WiMAXルーターのネットワーク設定を実行。